

平成24年度 第3回健康づくり審議会議事録

1 開催日時

平成25年3月8日（金） 午後1時30分～3時

2 開催場所 保健センター 2階研修室

3 出席者

(1) 委員

岡本和士委員（会長）、中島貞利委員、森清人委員、
谷川隆子委員、滝 愛委員、坪井明日香委員、鈴木まき委員
（欠席者：大島明子委員）

(2) 事務局

保健センター所長 田中陽子、保健師 牧聡子、長友妙子

4 議題

(1) あいさつ

(2) 議題

- 1) 健康づくりアンケート集計結果について
- 2) とよやま健康づくり21計画最終評価について
- 3) 平成25年度保健事業について
- 4) その他

5 会議資料

- ・ 各年代別アンケート結果一覧表
- ・ とよやま健康づくり21計画アンケート（自由記載）
- ・ 「とよやま健康づくり21計画」の最終評価について
- ・ 平成25年度保健事業

6 事業内容（要点筆記）

司会

それでは、ただ今から、第3回健康づくり審議会を開会いたします。私は、本日の審議会の司会を務めさせていただきます保健師の牧と申します。宜しくお願いいたします。開会にあたりまして、田中所長から挨拶を行います。

所長

皆さま、こんにちは。健康づくり審議会も本日が今年度最後の審議会となります。これまでご審議いただいていた健康づくりアンケートについても本日が最終となります。来年度の計画策定に向けた前段階として、ここでアンケートのまとめをいたします。皆さま本日はどうぞ宜しくお願いいたします。

また、今年度の評価を年度末に冊子にして皆さまに配布させていただきます。

司会

それでは、これより議題の審議に入ります。会議の進行につきましては、会長の取り回しをお願いします。

会長

皆さま、本日も宜しくお願いたします。それではただ今から、議事の進行をさせていただきます。まず、会議録署名委員の指名ですが、坪井委員と鈴木委員を指名いたします。後日、事務局が本日の会議録に署名をいただきますので、よろしくお願いたします。

それでは、次第に沿いまして、まず、議題（1）健康づくり21アンケート集計結果についての説明、質疑応答と進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

事務局

議題（1）健康づくりアンケート集計結果について

会長

健康づくりアンケート集計結果について、事務局よりご説明いただきました。アンケートの結果について、何かご質問やご意見はございますか。

委員

クロス集計により、保護者と児童との意識の差が、前回の集計時より明確となりわかりやすくなりました。先ほど、クロス集計について何かご意見があればとおっしゃっていましたが、どこまでの意見を求められていますか。

事務局

資料1として、多くのデータを皆さまに配布いたしました。その中で、青年の年齢別クロス集計では特徴をうまく掴めず、分析まで至りませんでした。青年の年齢別クロス集計の結果から、何かお気づきの点などございましたら、教えていただきたいと思います。

会長

皆さまには、事前にこの資料が配布されていたと思いますが、何か気付いた点はございますか。

まず、体型とダイエットの経験について、男女差はいかがでしたか。多分、母数が少ないので、1人の割合が大きくなります。「やせている」「ふつう」「太っている」の3つに分類すれば、男女の差がみられるのではないのでしょうか。

事務局

性別のクロス集計につきましては、第2回の審議会で結果を配布させていただきましたが、「問26 ダイエットをしたことがあるか」について、「はい」と答えたのは女性で21.2%、男性が13.0%と女性の方が男性よりダイエット経験が

あります。

会長

年齢とともに増えている様ですね。青年アンケートでは母数がかなり少ないので、1人の割合が多くなってしまいますが、全体の傾向として何かご意見はございますか。

委員

高校生から大学生にかけての年齢層になると思いますが、「問 13 勉強や仕事にとりかかっても持続しない」で、人数が少ないので何とも言えませんが「いつも」と答えた人が多いです。

会長

携帯など注意が散漫になる影響があるのか、若い人に集中力がないかもしれません。

事務局

資料3 P 2の一覧表に、テレビ・ゲームについて項目があります。青年では、ゲームや携帯を長時間使用している人が10年前より増加しています。

会長

このあたりが、集中力に影響しているのかもしれないですね。

委員

青年期のアンケートの性に関する設問（P22、P23）についてです。性行為でコンドームを、必ず使う子もいれば、全く使わない子もいます。性感染症についても周知度はあるかと思いますが、20歳以上でもまだ知識がない人もいます。今後の思春期の性教育に活かせるデータではないかと思います。この調査をして、回答が出てくるのだろうかと思いましたが、きちんと回答されていると思いました。

会長

非常に大切なことです。

委員

10年前と比較して、栄養面で脂っぽいものを食べる人が増え、運動面では運動量が減っているのが特徴であると思いました。

会長

アンケートの結果から、いろいろなご意見が出ました。今回の調査と10年前の結果が比較しやすいように報告書としてまとめていただければよいと思います。まとめについて時間がかかるかと思いますが、結果を熟読していただき、コメントやご意見をまた事務局へいただければと思います。

次に、議題（2）とよやま健康づくり21計画最終評価について事務局よりお願いします。

事務局

議題（２）とよやま健康づくり 21 計画最終評価について

会長

とよやま健康づくり 21 計画最終評価について、平成 14 年、平成 19 年と今回のデータを出していただきましたが、アンケート対象者の平均年齢や男女比はありますか。

事務局

申し訳ありません。そこは数字を出していません。

会長

10 年前と対象者の男女比や平均年齢で回答に変化があるかもしれないと思いました。かなり良い変化があったものと、10 年間で悪くなったものと差がありますが、これについていかがでしょうか。数字を見て今すぐご意見等は難しいかもしれませんが、ファーストインプレッションで構いません。

私からひとつ、(3) 分野別の評価、【栄養・食生活】の「2 1日3回野菜を食べる習慣を身につけるようにします」について、成人と高齢者の数字が下がっています。一方、【健やか親子】の「3 子どもの健全な発展のために、食育を推進します」をみると食育は推進されています。子どもの食事を注意している家庭が増えているのであれば、成人の調査で野菜を食べる習慣が増えても良いように思うのですが、これはどのように捉えればよいでしょうか。

事務局

野菜を食べている成人の調査は 40 歳以上の割合です。子育ては、30 代が中心となりますので年齢層が違います。また、これについては 1 日 3 回の食事の中で野菜となっておりますので、大変難しいと思います。

会長

ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

委員

【栄養・食生活】「3 自分の適正体重を維持するための食事量を知っている人を増やします」について、平成 14 年から平成 19 年では上昇傾向にあり、平成 19 年から今回の調査では下降してしまっています。これは調査対象による差なのでしょうか。啓発の推進を続けた場合には増えていくイメージがあるのですが、いかがでしょうか。

事務局

平成 19 年度は健診を受けていただいた人のデータとなります。健診を受けている方は健康に対する意識が高い方だと思いますので、良い値が出ているのではないかと思います。

委員

【休養・こころの健康づくり】【アルコール】についてD評価が多いです。こころの健康づくりは、すごく難しい部分があるかと思いますが、豊山町民はアルコールでこころの健康を解消しようとする傾向があるのでしょうか。

事務局

それについては、判断ができません。前回にもお伝えいたしましたが、こころの健康の指標といたしまして、自殺者の割合は平成23年は0件でしたが、平成24年には1件ありました。まだ保健所の正確な統計が出ておりませんが、ここ数年は少ない値で推移をしています。

委員

【アルコール】の妊娠中の飲酒についてですが、これは妊娠中に1度でも飲酒をしたかということですね。

事務局

はい。母子手帳の交付時に把握している数字は少なくなっています。こちらについては、次の計画の際にこの指標を変えたほうが良いのではないかと考えております。

会長

【歯の健康】や【タバコ】については良い方へ向かっているように思います。先ほどご指摘がありました【休養・こころの健康づくり】や【アルコール】については、まだまだ十分に浸透していません。とくに、こころの健康について現代の傾向だと思いますが、悪化しています。健診などで話を聞きますが、今は生活習慣病でも太っている人はあまりいません。食生活が悪いのではなく、メンタル面がものすごく不安定です。精神的に不安定だから、食事も不安定になりますし、運動もしません。メンタルが不安定になることにより、血圧が上がりコレステロール値が上がり、糖のコントロールが出来なくなって、生活習慣病になる人がいます。きっかけを伺うと、気分が落ち込んでいたら血圧が上がったという話も聞きます。アルコールやタバコもメンタルに関係します。こころの健康づくりにいかに取り組むか大きな課題だと思います。

青少年のクロス集計P3の「問11 朝方よりも夕方に気分が良くなる」の結果について、朝方より夕方に気分が良くなるのは軽いうつ傾向かもしれません。朝方には自殺が多いのです。母数は少ないですが、15歳から20歳までだいたい上昇傾向にあります。このように青少年の時からメンタルの不安定さが出ているということもあります。こころの安定のための啓発が必要になるのではないかと思います。

また、「問10 朝、いつもより早く目が覚める」は、若い子に多いですが、これも同じです。30代、40代からではなく10代からメンタルを安定させる必要があります。先ほどの、クロス集計では保護者と本人の乖離があります。今後

は保護者がお子さんをフォローすることが必要ではないかと思います。

委員

今のお話を聞いて感じたことですが、家族とよく話をする青年の割合について、本来なら100%を目指したいです。しかし、現代では家族形態が多様化しています。思春期、青年期に家族と話をする機会が少なくなっているため、実態として伸び率は難しいだろうと思いながら聞いておりました。

会長

家族との信頼関係になると思います。“三つ子の魂百まで”ではないですが、3歳までにしっかりとした信頼関係をつくれば、子どもが自発的に話すようになる。それが出来ると良いかなと思います。若い子は、父親と話をしていないという子が多いのがあります。こころの健康について取り組みが必要です。それが結果として出てきているのではないかと思います。

委員

青年期の頃から、こころにストレスを感じていて、【休養・こころの健康づくり】の結果が極端に悪いです。喫煙や母子など取り組みをしている分野では改善傾向があり、こころの健康、青年期のストレスケアについては事業がないため結果として出ないのではないかと思います。

委員

10年前と比較するとストレスは確実に増えていると思います。このような結果となるのはわかる気がします。社会全体が、そういう時代となっている中、それに耐えられるところをつくるにはどうすればいいのか、まだ私には全くわかりません。子どもの成長にも影響してくると思いますが、子どももあまり話さなくなってくるし、かといってあまり手を出しすぎたら逆に弱い子になってしまうとか、いろいろ考えると、子育てに自信がないということにつながり、難しい問題だと思います。

委員

日々過ごしていますとあまり気付きませんでした。10年前と比較して、携帯やパソコン等の普及など大きく変化しています。社会の変化がこころの健康や、食生活などに影響するなど、全て繋がっている気がします。細かい部分は統計をよく見なければ気付きませんが、生きている中ではあまり変わらないのかなと思うこともありますが、こうして変化が出てきてしまう気がしました。

事務局

やはり青年期というのはこころの健康の空白部分になっています。前回の会議でも報告いたしました。中学校の学校保健の教育の中で、成長時のこころの変化や自己肯定感など、これからの生き方に役立つ講演会やグループワークを4年前から、毎年学年テーマを決めて実施しています。少しは改善している

と思うのですが、まだ始まったばかりなので、これから成果が出てくるのではないかと考えています。今年度の実績につきましては、学校保健委員会に報告されますので、次回の会議には資料を配布できるかと思っています。

委員

こころの健康で、家族とよく話をする青年の割合が減少しているという話がありましたが、若い人はいろいろなことを捉えて大人になります。今の世の中では仕事に就くことが難しく、自分の将来を描けないなど、そういう先輩を見ている中学生がまた夢が持てないなど、そういう時代に入っています。雑誌やテレビの影響で話をしている部分もありますが、そのような一面があるのではないかと考えています。

委員

今の若い子は、景気が悪い、日本が落ち込んでいる中をずっと育ってきているため、夢がなく育っているところもあるかと思っています。

委員

健康にも関係するかと思いますが、例えば豊山町では三菱重工の方がお昼に走っているところを町民は見ていると思います。また、朝（6時半）に北名古屋までラジオ体操に行っている町民が多くいるのに、何故、豊山町で実施しないのでしょうか。不思議で仕方ありません。模範となる人々が社会にいることを町民は見ているのに出来ていないのです。

事務局

ラジオ体操につきましては、午前8時ぐらいに神明公園でテープを流して体操をしています。

委員

朝のラジオ体操は良い事です。何故、人が集まれる時間がないのでしょうか。神明公園の参加者は多くはないですね。

事務局

豊山町の方だけです、30人ぐらいです。

委員

そうですね。やはり人が集まる場所には、集まりたいと思わせる要素があると思います。そこを育てないといけません。

会長

それについては、今後の対応を期待したいです。

委員

こころの問題は本当に難しいですね。豊山町であるかわかりませんが、いじめの問題があります。我が家のお婿さんは中学校の先生で話を聞いていますと、いじめを受けて親に話す子どもなどいません。もし話をすると親がどう感じる

か。絶対本当のことを言わない筈です。子どもの様子を察するにも限度があります。難しいことなのだと言いますが、どうでしょうか。豊山町でいじめの問題はありますか。

委員

私には中学生の子どもが2人います。いじめの問題が出てきた場合に、いじめはいけない事だという雰囲気为学校の中であるそうです。でも、細かいこと、あの子は嫌い、この子は…というのはなくなりません。しかし、そこまで追い込んではいけないという意識は絶対あると思います。

委員

私は小学生の頃、年中いじめられていました。いじめに対処するにはどうしたら良いか。相手は言うことを聞かせようとしますが、やれと言われてもやりません。出来ないと言いました。言うとおりに行動することは、私が他の人に害を加えることになります。しかし親には絶対に言いませんでした。こころの問題は入り方により対応が違ってきます。今、実際、いろいろな相談を受けて困っています。この人は一体、何を考えて相談しているのか、それが掴めなければ対応ができません。時間がかかります。簡単な質問のようですが、難しい質問なのです。

会長

スクールカウンセラーがいますが、どこまで機能しているのか。スクールカウンセラーは学校の中の人です。外部から来ていますが学校の中で話を聞くため、話しが漏れるということを心配します。独立した場での相談をした方がいような気がします。この人に相談しなさいと言っても信頼関係がなければ難しいです。本当に信頼できる人に相談できるのが良いのですがそれも中々難しいです。ある程度年代があがれば良いですが、下手に入って問題が起こる可能性もありますので、小中高は介入が難しいです。そこをどうするのか、今後ひとつの方向性が出せると良いです。

最終評価について議論させていただきましたが、豊山町ではこの結果を見てどのような方向性をお考えでしょうか。

事務局

以前の調査結果と比較して差が大きい項目は、世の中の社会状況の変化もあり、またこちらのアプローチの効果もあると思います。【休養・こころの健康づくり】と【アルコール】については、非常に問題だと感じております。

こころの問題につきましては、国の自殺対策事業が始まって4年目となります。まだ、今後も健康教育やこころの健康相談を実施しております。また、こころを病んでいる人が、地域で生活できるように、地域で支えていく状況をつくる必要があります。お互いに理解しあうことが大切です。ゲートキーパーと

言いまして、こころの理解を深める健康教育を小さなグループから順番に広めて行こうと思っています。小学生、中学生では学校教育で徐々に進めております。

また、男性も女性もアルコールを多く飲んでいる方がいます。ストレスがアルコールの摂取量と関わっているかもしれません。クロス集計をしておりませんが、ストレスとアルコール量を分析し適正飲酒について啓発をしたいです。3月号の広報では、適正飲酒について20gまでと掲載いたしました。皆さまの意識の中に、20gがどのくらいか具体的に目で見えるようにしていきたいです。

会長

20gは一合ということでしょうか。実際にお酒を飲んでいる人にグラムではわかりにくいので、具体的に容器などで示した方がよいですね。

事務局

はい。これから健診の場などで具体的に示していきたいと思います。

委員

今は、お酒でもコンビニで売っていますからね。あれはもう撤廃しないといけないと思っています。または、タバコと同じように、きちんとした年齢確認をしなければなりません。

委員

コンビニでは、年齢確認をしますが、以前50歳の方が年齢を問われて怒ったという話もあります。お酒も身分証明書を持って買わせる、コンビニでも売らないなどの対策をしなければ減っていかないと思います。

委員

アルコールの飲み方を改善するためにも、コンビニでの販売について検討をする事が必要かと思いました。日本は非常に簡単にお酒が手に入ります。

委員

タバコの国際会議がありWHOの人が、日本では国がタバコをいけないと言いながら、国でタバコを売っている、おかしいと指摘されると、専売公社を民営化し国では売っていませんという形にした経緯があります。日本は自販機が発達しています。撤廃しなければいけないのかなというのがあります。

会長

最終評価につきましていろいろなご意見をいただきました。またどのように進めていくのかについては、皆さまにご意見をいただくということで、議題(2)を終了いたします。次に議題(3)平成25年度保健事業について事務局よりお願いします。

事務局

議題(3)平成25年度保健事業について

会長

平成25年度保健事業について、事務局よりご説明いただきました。子宮がんの検査が新たに追加となりました。ご意見等ございますか。

委員

子宮がん検査のHPV検査については全員ですね。

事務局

30歳から40歳の方は全員です。

委員

それから、子宮頸がんの予防ワクチンについて、障害が出たと聞きました。

事務局

子宮頸がんの予防ワクチンを受けた方に副反応については、現在、検討委員会があります。事例を検討し、その結果報告を受けてからということになります。

会長

それでは、他に何かございましたら、事務局へお寄せ下さい。次に、議題(4)その他に移ります。事務局の方で何かありますでしょうか。

事務局

お配りした資料の中に資料5がございます。住民からのご意見となりますが、これについては来年度の計画に活かしていきたいと考えております。

司会

今年度の健康づくり審議会は、今回で終了となります。来年度は、3回ほど予定しておりますので宜しくお願いいたします。今年度は多くの資料を検討していただきました。学校関係者など委員を交代される方もいるかもしれませんが、新しい人に代わりますと、状況がわからないと思いますので、出来れば引き続きお願いしたいと思います。

会長

本日の議題は終了いたしました。皆さまご協力ありがとうございました。また来年度1年ございますので、宜しくお願いいたします。

議事録の署名

平成25年 4月 3日

岡 本 和 士
鈴 木 ま き
坪 井 明 日 香